（別紙4）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390101774		
法人名	社会福祉法人聖母会		
事業所名	グループホーム聖母の丘　かえでユニット		
所在地	熊本市西区島崎6丁目1番27号		
自己評価作成日	平成30年2月20日	評価結果市町村受理日	平成30年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41―5
訪問調査日	平成30年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かな環境の中で穏やかに過ごしていただく為に、入居者一人一人のペースに応じた支援を心掛けている。その為に入居者一人一人とのコミュニケーションを大事にし、入居者の想いに寄り添い、日常生活の中で“できること・できていたこと”などを主体的に担っていただけるよう、暮らしを共にする者として働きかけている。ご家族来所時にも担当者を中心としてコミュニケーションを密に行い、入居者の日々の生活状況等について報告・相談している。また、入居者の方々と大切な時間を共に過ごして頂くために来所時間等はご家族の意向に沿うよう配慮するとともに、定期的なご家族への通信文書も定期的に発送し、信頼関係の構築に努めている。地域活動としては、ルルドホールの開放とルルドカフェ（認知症カフェ・認知症介護家族の集い）が定期的に実施できている。また運営推進会議委員の方々との連携協力も得られている。地域密着型施設として地域貢献活動の必要性を全職員が理解し、認知症ケアの専門性を活かしたルルドカフェがもっと地域に根差し信頼される事業所目指して精進していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

街中から一歩入った丘の上のホームは、ユニット名の「かえで」と「ゆうかり」の大木がある庭園・畑・芝生の広場に囲まれた自然環境の中にある。職員の互いを認め合うチームワークと、入居者・家族・職員の何でも話し合える関係づくりを図りながら、「その人らしい」「ゆったり・のんびり」の暮らしが目指されている。運営推進会議での様々な立場からの助言や提案・意見交換は、ホームへの理解と情報提供もあり、地域とつながりながら生きる入居者を支援する取り組みに活かされている。今年度は「県産木材を使った優れた施設」として最高賞を受けていて、「県産木材のスギやヒノキを使った居間や食堂などが、高齢者のための心地よい住空間となっている」と評価されており、職員は建物に負けないサービスの充実を図るとの思いを新たにしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を自然な形で意識付けできるよう玄関や各ユニット出入り口、キッチン等の数か所に掲示した。また、理念唱和も1回／月の部会の際に皆で行っており、理念を共有し実践している	2年前の開設時に職員が作った理念は、職員が毛筆で書いて掲示したり、パンフレットに紹介して共有している。ホームの運営と支援の振り返りをする会議では、理念に沿う実践となっているかが話し合われている。チームワークとコミニュケーションを大切にする実践は、家族や地域住民、法人事業所との連携と協力を得ながら、安心と安全、笑顔の多い生活支援となっている。	目標達成計画の一つに、理念を意識した実践への具体的な取り組みを挙げており、今後のホーム運営に更に期待がもてる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とまではいかないが、近隣への買い物・共同農作業及び各種慰問にて地域と交流をしている。また、ルルドカフェに入居者も参加し、地域の方々と交流している。	ホームは自然豊かな小高い丘の一角にあり、隣接する母体施設の行事やクラブ活動への参加、理美容室の利用、調理室への食事受け取り、保育園児の落ち葉拾い見学などの活動が行われている。それぞれのできる事としたい事を見極めながら、ルルドカフェでお茶を配ったりおやつを楽しんだり、近くの住民と一緒に農作業を行うなど、地域の人との交流に慣れる工夫も図られている。	運営推進会議では委員からの情報や様々な助言と提案があり、徐々にホームの認知度が広まり、地域交流の場が広がっている。今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ルルドホールの無料開放及び認知症カフェ（ルルドカフェ）を定期的に開催しており地域にも情報を発信している。またシルバーヘルパー養成研修時、介護実技指導を担い、事業所の専門性を地域に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会長・民生委員・ささえりあ職員・地域代表・家族代表・入居者等も参加して2か月に一回開催している。日常の活動状況・事故・苦情等の報告によって意見交換を行っている。	運営推進会議は、資料を添えてホーム運営の状況を開示していて、住民や家族代表の情報提供と助言・提案があり、会議録からは活発に意見交換している様子が伺えた。「職員に協力して入居者の喜ぶ顔が続くように野菜作りを頑張る」「介護度が低くなった事への労い」「外部評価への協力」等々、多岐に渡る話し合いの結果がホーム運営に活かされている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	熊本市の介護相談支援員による月1回の来所があり、入居者の声を聴いて頂いている。また、運営推進会議やルルドカフェ時には、ささえりあ職員や区役所職員の参加があり協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当者とは開設当時は頻繁に相談や質問、電話で連絡を取っていたが、現在は落ち着き、地域包括担当者と運営推進会議時に話し合う事が多くなっている。介護相談支援員の入居者の声などの記録は、回覧とファイルでケアに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一回身体拘束をテーマにした施設内研修があり参加している。縁側には段差がありリスクを回避する為にセンサーマットを使用。玄関口は防犯・安全対策も兼ねて施錠を行っている。	管理者とケアマネージャーの、「一人ひとりの心身の状況や自立とリスクの関連性を把握して、言動を妨げず、動きたい時に動く支援」の方針が共有されている。必要時はセンサーマットを使い、玄関はチャイムで出入り口の確認をし録画する装置が取り付けてられている。二つのユニットの間は開放して、閉塞感のないホーム環境となっている。なお、建物の設計上、安全面から玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年に一回権利擁護について施設内研修があり、言葉遣い・職員同士の声の掛け方等お互いを観察することで虐待のない入居者の立場に立ったケアに取組んでいる。また、職員へのアンケートが実施され虐待防止への意識付けが行われている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する内部研修は実施されているが、制度に該当する入居者がおらず活用する機会もなかったため、成年後見制度等についての理解は充分とはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度は新たな契約の締結・解約の対象者はいなかった。改定の際は、新しい重要事項説明書を読みあげ、家族への疑問や不安を伺いながら十分な説明を行い、納得して頂いた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に意見や要望を尋ねたり、ご家族面会時には日頃の様子を伝え、意見や要望がないか伺い、それを反映させるよう努めている。運営推進会議にはご家族・入居者の代表者も参加して意見を伺っている。ご家族参加の行事を企画・実施し意見交換を図っている。	家族の面会が多く、県外の家族の代理人の面会もある。入居者ごとの担当職員は、家族との連絡や希望を聞く関係づくりを図っていて、管理者の「職員から情報を聞く事が多く、職員は頑張っています」の声があり、家族の意見を共有し、迅速な対応に努めている事が伺える。運営推進会議や行事の際も要望を聞く機会とし、入居者・家族と職員が話し合いながら思いに沿うホームづくりを目指している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員会議や部会等で職員に運営に関する話をし意見交換を行っている。また施設の代表者・管理者は半年に一回面接を行い、職員の意見を聞く機会を設けている。	職員同志や、管理者と職員が意見を言い合える関係づくりがあり、要望や提案はホーム会議で検討し、管理者とケアマネージャーが出席する法人会議を通じて法人本部に伝わる仕組みとなっている。法人代表3名による面談では、職種変更や将来展望、個人的な悩み事についても話し合われている。ホームの随所に職員の創意工夫による支援の数々が見られ、入居者・家族・職員全員で安心して生活できる環境づくりを目指す意気込みが感じ取れた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回の面談時に、職員の意見を聞き、それを基に業務改善を検討し、職場環境を整えようと努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内でも月1回の内部研修が実施されている。有効な外部研修がある時は職員に伝え積極的に参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間での研修や地域医療福祉空間に関する懇談会に参加し、地域の介護施設との意見交換などを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規のご入居は無かったが、前年に引き続き日頃のご本人の様子や言動を観察し、本人の話を傾聴しコミュニケーションを取り信頼関係を作る努力を常に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規のご入居は無かったが、前年に引き続きご家族の意見や思いを伺い、入居後も意見や要望を尋ね信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規のご入居は無かったが、前年に引き続きサービス導入の段階で他のサービスの利用も選択肢としてあることを説明している。入居後も各入居者に合わせて他のサービスもある事を説明している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される一方の立場におかないように、出来ることをお願いし、作業をして頂いた時には感謝の言葉を伝え、共に生活しているという事を感じてもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の体調変化や認知症の周辺症状等への対応などをご家族に伝え意見を伺うとともに、職員とご家族で話し合いながら病院受診や面会・外出支援などの協力を得てご本人の生活を共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との旅行や帰省などの外出・外泊の意向を積極的に受け入れご家族との関係継続に努めている。また、知り合いの方々が来所された時には話しやすい環境を作り、気軽に再来できるよう声掛けを行っている。	夫・息子・娘・知人の面会が多く、毎日来所する人はデイルームを使うなど、それぞれの入居者や家族が落ち着く場所が使われていて、お茶の接待などがある。入居者の意向を察知し家族の協力を得て、ドライブを兼ねての墓参り・美容室・かかりつけ医受診などが支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の性格や入居者同士の関係性を理解し、入居者同士が話せるような状況を作っている。1人で居る時は声かけし、トラブルになりそうなときには、職員が間に入りお互いの想いを傾聴し安心できるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対象者がいないため実施していないが、本人やご家族からの希望があればフォローしていきたい。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ご本人に思いや暮らし方の希望・意向を尋ねており、介護相談員からの意見も参考にしている。尋ねることが難しい方も調子が良い時に尋ねるようにしたり、困難な場合も本人本位になるよう職員同士で検討して対応している	入居者一人ひとりの担当職員により、思いや意向の把握が図られている。新入職員に不安を示す入居者もいて、早期に顔を覚えてもらうなど混乱を招かない関係づくりが工夫されている。アセスメントに記入がなかった肉類を残す入居者への気付きは、代替え食を準備し完食する支援となるなど、入居者に関する気付きは話し合いをして支援に繋げ、その後に振り返りの話し合いが持たれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期にある程度情報収集をしているので積極的にご家族に尋ねる事はあまり無かった。新しい情報が入った時は共有するようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日入居者一人一人にバイタル測定を行い、心身の状態を観察し、経過記録等によって職員全員が情報を共有し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員・ケアマネ・家族が協力してケアプランの作成やモニタリングを行っている。入居者の重度化により以前に比べてカンファレンスを行う機会は減ってきている。	ケアマネージャーの「ケアプランは、入居者・家族・職員が協力し合ってつくる」「担当職員が深く追求する姿勢をもつ」の方針が共有されていて、現状に沿った計画になっている事が記録類からも伺えた。担当職員は面会時や電話での報告時などに支援の要望を尋ねて、モニタリングや介護計画作成の場に臨んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員が観察と気づきが大切であることを意識し、記録や申し送りに残して情報を共有しケアやケアプランに活かしている。気づきやケアの工夫は職員間で情報共有していたが、記録に記入することが少なかった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者ご本人や家族の状況に応じて、福祉タクシーの予約、移動理容室の予約や誘導、急変時には事業所から車を出して病院受診に付き添ったりと、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の病院や金融機関、美容室等への外出や地域の行事、季節ごとのイベントに出掛けたりしている。また慰問の方々との交流もあり暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者がこれまでかかりつけにしていた医療機関を尊重し、状態に変化があれば書面で報告したり、主治医に挨拶に出向き、医療機関との連携を密にするようしている。	入居者・家族の希望するかかりつけ医の定期受診は、家族の付き添いを原則としていて、必要時は職員が同行している。受診前の医療機関への報告や、専門医受診時は職員が付き添う等、入居者の現状に即した支援となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内服の管理、傷の観察など看護師と共に行っている。また、家族やかかりつけ医との医療的な報告も看護師と情報を共有し密接に連携しながら支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入退院時や手術の際には、職員が付き添い医師や家族と相談しながら、情報交換を密に行い早期に退院にできるよう努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化により、家族や医師との話し合いを行い、外来受診から訪問受診へ変更の手続きを行った。また事業所方針をご家族に伝え、エンディングノートの一部を活用し、急変時の対応について話し合い、看取りまでできるようにしている。家族の意向をその都度確認しながら職員間でも状態に合わせてケアカンファレンスを行い、看取りについての内外部研修会にも参加している。	入居時に日常的な健康管理と、重度化や終末期の支援についての方針が説明されている。重度化した際のかかりつけ医受診と24時間対応の訪問診療の協力医が決まっていて、急変時やホームでの看取りができる支援体制となっている。家族とは必要に応じて何度も話し合い、方針を明確にする仕組みが共有されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習の実施やマニュアルの作成を行い、いつでも確認できるようユニット内に設置している、また緊急搬送時の連絡先なども個人ファイルに綴込みしている。緊急時の対応については勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間と夜間を想定した火災訓練を行い、その際には消防設備業者・本館の施設職員・地域の方にも参加してもらい協力体制を築いている。地震を想定した訓練は実施できていない。水害に関しては地形上孤立の想定はあるが訓練の実施は必要なしと判断されている。	ホーム開設直前の熊本地震では、地域への水の提供や、被災した職員の共同生活を経験していて、地域との協力関係を持つことの大切さが共有されている。運営推進会議には、消防手順に沿った訓練の報告があり、本館との連携や地域住民の協力がある事が伺える。掃出し窓が多く、ホームを囲む広場に安全に避難する動線が確保されている。備蓄は法人全体で検討されている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応ができるように、勉強会を行ったり職員同士で注意しあったりしている。	職員は「長期間一緒に生活しているので、表情や様子で、一人ひとりの想いが解るようになっている」としながらも、「一緒にいると慣れ過ぎや近い関係になり過ぎて、尊重する支援ができているのか」と振り返りるグループワークをしている。「入浴はマンツーマンで、排泄はトイレで」を原則としながら、一人ひとりの生活リズムとプライバシーに配慮する支援が継続されており、食事の場面からも個別対応の支援の様子が伺えた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に声かけして意向を確認できるようにしている。意思表示をあまりされない入居者にも出来るだけ自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課は決まっているが、本人が起きない時は無理に起こしたり、入浴を無理強いしない等、本人のペースや意向に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者それぞれの能力に応じて、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。しかし、身だしなみに無関心な入居者も多く、職員が一方的に対応しているという意見もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付け、台拭き等入居者と一緒に行っている。その日のメニューを伝えたり、季節感のある食事を提供し、月1回のおやつ作りでは一緒に作っている。	現在朝食はホームで作り、昼食と夕食は本館調理室に入居者と共に取りに行っている。入居者は食事をつぎ分ける人、配茶や配膳をする人など、出来る人が出来る事をしていて職員が見守っている。食事中に職員が「熱いお茶をどうぞ」と急須をテーブルの中心に置き、「熱いお茶を飲んでもらいたい」等の職員の思いが実践されていて、自分で好みの量を注ぎ美味しそうに飲む入居者の表情を見る事ができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の食事を提供しており、職員が入居者の食事状況や摂取量・水分量を把握・記録し、一日に必要な水分量が確保できるよう支援している。また、嚥下や咀嚼に問題がある場合はその人に合わせた食事形態に適宜変更している。月一回の体重測定を行い体重増減の確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っているができていない人もいる。拒否により口腔ケアが難しい方は時間をおいて再度声かけし、出来る時に口腔ケアを行うようにしている。口腔ケアの際は口腔内の観察を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンを活かして定期的に、また便意がありそうな様子の時にトイレへ誘導し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	食事と水分摂取量やバイタルサインの一覧表と排泄チェック表をもとに、排泄パターンに応じてトイレとポータブルトイレでの排泄介助を原則としている。共用空間と居室のすぐ近くに、適切な広さを持つ3種類のトイレが向かい合って作られていて、心身の状況に応じて選択されている。使い慣れたトイレまでの動線とトイレマークで、戸惑いの少ない自立への支援となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師との情報を共有し排便間隔が長い時は水分を多く提供したり、身体を動かしたり、便秘薬を調整することで排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の曜日は決めてはいるが、1人ひとり入居者の意向を確認し、体調や気分に応じ入浴予定日を変更しており、個々に沿った支援を心掛けている。	週3回、午前中の入浴を原則としているが、入浴が嫌いな入居者には職員の勤務表をみて介助者を決める等して、入浴回数が確保されている。入居者の状況に応じる3つの機種の浴槽と様々な手すりの設置は、重症化に向けた支援への取り組が感じられた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムを尊重し、日中でも眠そうな時は居室へ誘導する等状況に合わせて安眠や休息の環境を整えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに挟み薬の内容を理解するよう努めるとともに、介護職員と看護師が協力して内服支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力に合わせて役割を持ち、好きな音楽をかけたり、散歩をしたり行事やおやつ作りを実施し、グループホームで季節を感じながら生活してもらっている。宗教者の訪問も定期的にあり、祈りの時間を過ごすことができている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの外出希望の訴えはほぼ無いが、散歩や地域行事、季節のイベント、日帰り旅行等を通じて外出支援をしている。日常的な外出支援ができていない、分からないと感じているご家族の意見があり、グループホーム新聞として2ヶ月に1回日々の暮らし（生活状況）を載せたお便りを発行している	介護計画に心身の状況に応じた外出の方法を位置づけていて、事業所周りの自然環境の中での外気浴や散歩・法人行事・カフェ・地域行事等に出向いている。家族の協力を得て日帰り旅行も行われていて、入居者と家族の楽しむ様子をみて、職員は次のステップに向けての参考にしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族へ確認したが、お金の所持を希望されておらず対応していない。日用品など個別に必要なものがあれば家族に連絡し購入いただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を掛けたいと言われた時はできるだけ掛けるようにしている。本人宛にきた手紙は本人に渡したり、読んであげたりしている。また、職員と本人のコメントを載せた年賀状を家族に出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には季節の花を活けたり、、行事の飾りつけを行っている。共用の空間、居室等は毎日清掃し使いやすいようにしている。室内も明るく、室温も過ごしやすい適温になるよう管理している。	リビングから、居室・トイレ・浴室・ダイニングなどは視野の範囲内にあり、迷わず安全に移動ができ、何処にいても静かな中にも人の気配を感じる環境となっている。リビングは掃出し窓から畑と庭やベランダに繋がっており、くつろぎ用のソファーが置かれている。中庭を囲む廊下の処々には一人用の肘掛け椅子があり、外の景色を眺めたり、くつろいだり、体操を楽しむ入居者の様子が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋に行きたい時は自由に出入りできるようにして、ドアもあり、プライベートが守られている。入居者同士の会話に気を配り、気の合う人を隣に座ってもらったり、思い思いに過ごせるようリビングにソファを置くなど環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に合った居室にしてもらうよう、自宅で使っていた家具や好みの物（クッション・ぬいぐるみ・毛布・湯呑等）、写真等を置き、居心地良く過ごせるようご家族と一緒に工夫している。	居室には、一人ひとりに位置の違うベッドと洗面台・愛用していた箪笥や飾り棚・衣装掛けが置かれ、壁面には鴨居をまねた物掛けがある。帽子や洋服、テーブルには写真や湯飲みなど、馴染みの物で室内を一杯にしている人、広いスペースを活かすシンプルな部屋などがあり、住む人の個性が感じられた。着物を解いて皆で作った暖簾は、其々に趣きを異にした彩りとなっていて、自分の目印の部屋にまっすぐ戻る入居者の様子が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいように張り紙をしている。居室前の名前の表示を大きめに改善し、風呂場の脱衣所には新規で手すりを設置、安全に立位できるよう工夫した。		

（別紙4）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390101774		
法人名	社会福祉法人　聖母会		
事業所名	グループホーム　聖母の丘　ゆうかりユニット		
所在地	熊本市西区島崎6-1-27		
自己評価作成日	平成30年2月20日	評価結果市町村受理日	平成30年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41―5
訪問調査日	平成30年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かな環境の中で穏やかに過ごしていただく為に、入居者一人一人のペースに応じた支援を心掛けている。その為に入居者一人一人とのコミュニケーションを大事にし、入居者の想いに寄り添い、日常生活の中で“できること・できていたこと”などを主体的に担っていただけるよう、暮らしを共にする者として働きかけている。ご家族来所時にも担当者を中心としてコミュニケーションを密に行い、入居者の日々の生活状況等について報告・相談している。また、入居者の方々と大切な時間を共に過ごして頂くために来所時間等はご家族の意向に沿うよう配慮するとともに、定期的なご家族への通信文書も定期的に発送し、信頼関係の構築に努めている。地域活動としては、ルルドホールの開放とルルドカフェ（認知症カフェ・認知症介護家族の集い）が定期的に実施できている。また運営推進会議委員の方々との連携協力も得られている。地域密着型施設として地域貢献活動の必要性を全職員が理解し、認知症ケアの専門性を活かしたルルドカフェがもっと地域に根差し信頼される事業所目指して精進していきたい。□

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を自然な形で意識付けできるよう玄関や各ユニット出入り口、キッチン等の数カ所に掲示した。また、グループホーム部会時に職員皆で唱和を行い、その理念を共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の慰問や地域の行事に参加したり、聖母の丘全体での行事に参加してもらう。また畑作業を地域の方と共に行っている。他ルルドカフェ・運営推進会議などへ参加してもらい、繋がりを維持している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内のN中学校へ高齢者についての講話に出向いたり、シルバーヘルパー養成講座の介護実技指導を担ったりと事業所の専門性を地域に活かしている。又、ルルドカフェの際には介護の相談相手として支援の方法を伝え、情報誌等も準備・活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の様子を写真に収めて活動を伝え、事故の発生状況や行事報告等を行い、それについての意見をもらうようにしている。職員も交代で参加するようにして、頂いた意見を会議録に残し閲覧している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	熊本市の介護相談支援員による月１回の来所があり、入居者の声を聴いて頂いている。また、運営推進会議やルルドカフェ時には、ささえりあ職員や区役所職員の参加があり協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては心掛けて取り組んでいるが、玄関の施錠については、玄関周辺に職員がいない事も多く目が届かない現状でもあり、防犯・安全対策としても施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	新入社員に対しては入社時に研修会を行っている。また全職員についても定期的に内部研修にて学ぶ機会を持ったり、虐待についてのアンケートを定期的に行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者1名に成年後見制度の利用が生じた為、制度について学ぶ機会が生じている。ご家族や後見人と適宜確認しながら連絡調整を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結は計画作成担当者および管理者が行ったが、契約内容については職員にも説明が行われている。介護保険制度改定時やケアプラン更新時にはご家族に対して丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事等でのご家族来所時に意見や要望を確認したり、各居室担当者からご家族と情報交換を行い連携を図っている。又、玄関に意見箱の設置も行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月部会や勉強会を行い、意見交換の場を設けている。また職員との面談が年に一回実施されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算の届け出・、有期契約職員から正職への登用、有給休暇の取得消化、研修への参加奨励等、職場環境・条件の整備に努力がなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修やチューター制度の実施、資格取得に向けた情報の提示、施設外研修の参加を促し実施している。また、月初めには、職員同士良い所を褒め合いモチベーションアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修会等に参加し、サービスの質の向上に努め、情報交換の場とし活用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度は新入居の方はなく、対象者なし。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年度は新入居の方はなく、対象者なし。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今年度は新入居の方はなく、対象者なし。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯物干し、掃除等共に実施しており、家庭で生活しているように職員も共に食事を食べている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が途切れないように、生活用品等の補充依頼や受診・外泊、外出等を勧め、家族との関係が継続できるようにしている。全ての御家族ではないが、ドライブや年末年始外泊・誕生日の外出の実施あり。今年度はご家族と共に、日帰り旅行も実施。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や入居前に利用していた病院や美容室、お墓詣りなどの外出をご家族に協力を得ながら途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係や性格を理解し、トラブル（口論等）が起こらない様に配慮している。リビングや食堂で会話がゆっくりとできる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は退居者なしの為、対象者なし。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方の希望や要望に対しては聞き取りが可能な為、できる限り聞き取りを行い希望や要望に沿うようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人差はあるが、自宅から私物の持ち込みや、本人やご家族からの以前の話などから状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の変化は日々の経過記録等にまとめ、その時々の心身状態に合ったケアに努めている。散歩や買い物などにも出かけ、気づきについては職員全員で情報共有に努めている。また、アセスメントの書式を新たに作成した。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に状況把握、気づいたことを報告している。また、ユニット会議やモニタリング等を通して、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の申し送りと経過記録や日誌の記入をしながらケアマネとの連携を図り、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々にあった事案については柔軟な対応が出来る様にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室や病院などの地域資源を活用し、避難訓練や畑づくり、慰問などで地域の方々に参加を頂き、入居者との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続してもらい、受診時には近況を担当者から病院やご家族へ伝えたり、必要に応じて付き添いを行う等し柔軟に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も現場に入っている為、連携は普段から取っており、内服等の相談、調整や受診時に上申している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入退院の対象なし。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りまで行うこととしており、終末期における支援についても本人、家族はもちろん、事業所や職員としてできる事を提示し、支援に取り組むこととしている。（契約時に説明し、終末期への対応をご家族にも確認している）		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の実施やマニュアルの作成を行い、各ユニットに配布している。また、AEDの使用法等の講義を受講した。今後も勉強会を継続していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定の火災訓練の実施と反省点を基にマニュアルの作成を行っている。訓練には地域住民の方や他部署へも参加も依頼し、共に訓練を実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会などで声掛けについて見直し、職員同士で工夫しながら個々に合った言葉かけを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を尊重し、日課的な生活ではなく、本人が自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望を尊重し、日課的な生活ではなく、本人が自己決定出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣類を選んだり、化粧品の使用やこれまで慣れ親しんだ生活用品を使用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備（朝食の食材切りやおやつ作り等）や配膳、下膳に係り、生活感を味わってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	味付けの工夫や、食事の際はテーブルに急須を置き自由に飲めるようにし水分摂取を促している。また食思が低下している方に対しては、好みを理解しご家族と協力しながら、食べれる物の提供を心掛けた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣として口腔ケアができる様に、毎食後声掛けを行って、できる事を理解した上で口腔ケアに繋げている。又、歯科往診にてその方に合った口腔ケアの方法の指導を受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	まだ、尿・便意がはっきりされている方が多く、本人のタイミングで行っているが、パンツやパットの汚染確認や交換介助は行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士による献立作成により、バランスがとれた食事の提供や、自然排便が出来るように、個々に応じたトイレで排泄を行ってもらう様にしている。排便確認が不十分な時には、看護師にて触診してもらい排便の確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日での振り分けは行っている。時間帯や順番は柔軟に対応しており、浴槽の種類も本人の身体状況に合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせた室温や寝具の調整を行っており、その人の希望や体調に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と居室担当者が、内服薬の把握と薬の使用及び効果について理解するように努めている。また、内服薬が変更された場合には、服用後の経過観察を行って病院へ報告出来るようにしている。手渡すだけではなく確実な服薬確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事を理解した上での役割（洗濯・食器洗い・掃除等）を行ってもらっている。行事や散歩・買い物へ外出する事で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や行事等で、ご家族の協力を得ながら外出はできているものの、本人の希望を把握したうえでの外出支援までには至っていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に御家族へ確認したが、持たせておきたいというご家族がほとんどなく、ご家族管理としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂に電話があり、ご親戚の方からの電話を取り次いだり、希望があれば利用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は毎日行い清潔を保ったり、季節の花を飾る等し季節感を取り入れている。しかし、トイレの電気が自動センサーの為に、入居者の方に馴染みが少なく混乱を招く事がある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士でお話しできる様に、リビングにソファーを置いたり、居室からは外を眺める事が出来る様に吐き出し窓にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持参して頂き、配置もご家族と共に行った。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーにし、トイレの場所が分かるように表示したり、居室入口にそれぞれの好みに応じた暖簾をつける事で、自立した生活が送れるように支援している。		